

第三者評価結果

<乳児院>

施設名：豊橋ひかり乳児院

令和4年度

福祉サービス第三者評価機関
株式会社 スニックス

第三者評価結果入力シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

①第三者評価機関名

株式会社スニックス

②評価調査者研修修了番号

SK2021160
S2021071
SK2021163

③施設名等

名称：	豊橋ひかり乳児院
施設長氏名：	寺下 薫
定員：	36名
所在地(都道府県)：	愛知県
所在地(市町村以下)：	豊橋市高師町字北原1番地104
T E L：	0532-62-0019
U R L：	http://tf-jigyokai.org/hikari/

【施設の概要】

開設年月日	1965/4/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 豊橋市福祉事業会
職員数 常勤職員：	52名
職員数 非常勤職員：	17名
有資格職員の名称(ア)	看護師
上記有資格職員の人数：	9名
有資格職員の名称(イ)	保育士
上記有資格職員の人数：	35名
有資格職員の名称(ウ)	児童指導員
上記有資格職員の人数：	8名
有資格職員の名称(エ)	管理栄養士・栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(オ)	調理員
上記有資格職員の人数：	7名
有資格職員の名称(カ)	心理療法担当職員
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要(ア)居室数：	7室
施設設備の概要(イ)設備等：	診察室・病室
施設設備の概要(ウ)：	洗濯室・倉庫
施設設備の概要(エ)：	小規模棟グループケア「キラキラの家」

④理念・基本方針

<p>★理念</p> <p>【法人】：「地域の中でいきいきと生活するために」</p> <p>【施設】：「表情豊かで元気な子どもを育てる」</p> <p>★基本方針</p> <p>【法人】：「社会福祉の環境変化や地域の福祉ニーズに対応した、活力ある法人経営」 「利用者本位の良質な福祉サービスの提供」 「社会福祉法人の特色、長所を十分に発揮し、健全かつ透明性の高い永続的な経営」</p> <p>【施設】：「児童福祉法の理念に基づき、子どもたちの人権を尊重し、個々に視点をおいた良質な養育を実践する」</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・東三河唯一の乳児院として、家庭での養育が困難な乳幼児を預かり、質の高い保育看護の提供と子育て支援機能の充実を目指す。 ・本館棟の全面改築を行い小規模グループケアと少人数保育の充実を図る。 ・里親支援の推進と里親委託機能の強化を行う。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/4/11	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/1/3	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成30年年度（和暦）	

⑦総評

【総評】

豊橋ひかり乳児院は昭和40年に開所し、長い歴史の中で培われた経験を十分活かし、乳幼児の養育や地域の子育て支援に尽力している東三河唯一の乳児院である。

今年度は「家庭的養護推進計画」をベースに長年の構想であった本館棟の全面改築、新館棟の一部改修工事に着手され、小規模ユニット化の全面移行を進めている。また、定員を44名から36名に減員し、より家庭的な個別養育に向けた専門性を追求している。

今後は新たな課題も生じてくるとは思われるが、ユニットによる家庭的な養育がさらに期待できる乳児院である。

◇特に評価の高い点

〈個別養育体制の整備〉

次年度からスタートするユニットによる養育体制を見据えて、現段階で乳幼児を除く4名を基本とした7クラス体制で生活するなど、新しい体制での生活を実施し手順や対応の見直しを図っている。また、従来からの担当養育制により、子どもと一緒に入浴や個別での外出など、家庭的な雰囲気づくりを心がけ、スキンシップをより多く図れる取り組みを重視している。

〈新任職員への徹底した教育〉

新人職員や異動してきた職員に対しての教育や指導体制が充実しており、養育マニュアルには、初めての職員に対してもわかりやすい表現により、子どもに安心・安定した日常生活を提供するための必要な業務手順が詳細に示されている。また、新任・異動職員に対して、乳児院職員としての心構えや基本的知識について、施設内研修を行ない、新人職員でも迷うことなく養育に携われるような体制が整っている。

〈日常生活に関する丁寧な養育環境の整備〉

個別に応じた適切な衣類の提供、離乳食を含めた食事や食育に対する取り組み、安眠への配慮、排泄への援助、健康管理など具体的なマニュアルが整備されており、加えて子どもの意向や状況に応じた工夫がされるなど、丁寧な対応が図られている。

〈楽しい食事に向けた配慮と工夫〉

食事は全部残さず食べることにこだわるのではなく、楽しく食べることを大切にしている。味付けについては「味覚形成の大切な時期」ということを重視し素材の味を引き出すように配慮されている。また、噛む力を育てるためにスティック野菜やフランスパン等を意識的に取り入れる等の工夫もされている。行事食では、視覚的にも楽しい盛り付けにしたり、バイキング形式を取り入れたり、楽しくおいしく食べられる工夫が随所に施されている。

〈つなぎを大切にしたい関係機関との連携〉

措置変更や家庭移行の際は、これまで子どもに行ってきた養育や支援内容が途切れないう、保護者をはじめ、児童相談所の担当者や移行先の職員等に対し、支援内容や今後の課題における情報提供・共有が細かく行われている。また、写真やイラストを用いて「未来のかけはしノート」を作成し、子どもに移行先が少しでも伝わり、安心できるよう取り組まれている。また、親子再構築に向けた取り組みや退所後のアフターケア体制の整備、啓発や広報を含めた里親支援活動なども積極的に取り組まれている。

◇改善が求められる点

〈より具体的な目標設定を〉

施設では、単年度計画である「養育運営のしおり」に養育・支援に関しての重点項目としての支援計画が作成され、目指すべき方向は示されているが、具体的な到達目標の設定までには至っていない。今後は、養育・支援計画に達成度合いを測ることができる指標や、達成するための具体的な方策等を明確にされるなど、記載内容等を検討されたい。

〈自立支援計画と連動した目標設定の確認を〉

施設では養育支援システム（FTケア）により、日々の養育・支援内容が記録され職員間で情報共有されている。記録の記入方法についてのマニュアルや院内研修により、職員間で統一できるように努めている。子どもたち一人ひとりの成長の過程が分かりやすくまとめられ、ネットワーク化により情報が共有される仕組みとなっている。ただし、自立支援計画に基づいた目標と、実施されている個別支援の月間目標が連動していないケースもあり、双方の目標が連動されているか確認する仕組みの整備に期待したい。

〈役職者等の連携体制の整備を〉

施設長は本館棟の改修工事や小規模ケア体制の構築、実現に向けて意欲的に取り組み、補佐役の副施設長も施設長の意向を踏まえ精力的に取り組まれているが、新体制に向けた取り組みをはじめ日常の体制整備などに関して、主任や各クラスのリーダーの役割や分担などがかわりが希薄な部分も否めない。ビジョン実現に向けて組織として取り組むためにも、役職者を含めた連携体制の強化に期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

本園の小規模化へ向けた取り組みや個別養育などが評価された点はとても嬉しく思うと共に他にも高い評価を受けた点は改めて認識でき、大いに励みになりました。半面、小規模体制への移行において、主任・クラスリーダー以下の関わりの希薄さが指摘されたことは大いに反省すべき点です。今後は、小規模化への取り組み、他の改善を求められる点など、院全体で共有して、子どもたちが表情豊かで元気に育っていけるよう取り組んでまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。□	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a ○ ○ ○ ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】 理念や基本方針は、ホームページ、パンフレット、広報誌に明記され、面会室、相談室に掲示されている。職員には「養育運営のしおり」により年度初めの職員会議で周知されている。新任、異動職員にはオリエンテーション時や院内研修において説明され理解の浸透が図られている。また、保護者には入所時に「入所のしおり」「パンフレット」を使用して細部まで丁寧な説明を行っている。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	a ○ ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】 施設長は、全国乳児福祉協議会をはじめ愛知県児童福祉施設長会や愛知県施設長会議等に参加し、乳幼児や施設に関わる福祉環境のニーズや動向の把握に努めている。施設では、来年度より本館で小規模グループケアに取り組まれるため、今後の課題について把握、分析を行っている。また施設での、利用率やコスト分析等も数値化され職員会議等で全職員へ周知が図られ、法人事務局にも毎月報告されている。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】 施設では、運営に関わる課題と養育・支援についての課題を明確にされ、単年度計画において改善に向けた運営計画と養育支援計画に反映されている。また、法人事務局にも課題が報告され検討、共有が図られている。施設では「社会的養護推進計画」に基づき、来年度から本館においても小規模グループケアに取り組まれる予定となっている。今後は、小規模グループケアを推進する上での課題について、職員とともに丁寧に分析され、改善・解決に向けた取り組みに期待したい。	

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設として今後7年間にわたる中・長期計画が策定されている。計画には「社会的養護推進計画」を柱とした小規模ユニット化を推進するための本館改修工事予定と収支計画、施設定員の減員などの目標が明記されており、必要に応じて見直しもされている。今後は、経営課題とされている小規模化後の施設の高機能化・多機能化に向けた課題についても、具体的な目標を設定され中・長期計画に反映されることが望まれる。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【判断した理由・特記事項等】		
施設の単年度計画として「養育運営のしおり」が作成されている。しおりには、運営方針、支援計画、保育看護計画、職員研修、防災計画、職員勤務心得、倫理綱領等が明記されている。支援計画には養育を充実させるための重点項目が掲げられ、目指すべき目標が示されている。今後は、目標に対して達成度合いを確認することができる指標や、具体的な方策等について明記されるなど記載内容の工夫を検討されたい。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
事業計画は、前年度の評価をもとに中堅職員参画による運営会議にて協議、策定され職員会議等で職員に周知して理解を促している。今後は、協議内容を議事録として残すなど策定の経過を明確にされ、より多くの職員が事業計画作成に参画するためにも、職員からの意見を集約して反映できるような仕組みづくりにも期待したい。		

②	7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

事業計画の説明及び周知については、入所時の保護者との面談時に「パンフレット」や「養育運営のしおり」を用いて、子どもへの養育支援及び行事計画などと一緒に説明されている。ただ、施設の特性上、来院できない保護者には年3回郵送する「よちよち通信」に子どもの成長記録と一緒に、行事予定、支援計画、施設改修工事等を掲載し理解を促している。今後は、保護者向けに簡略化したわかりやすい資料作成を検討され、さらなる理解に向けた工夫や説明にも期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設として養育の質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。各クラス会議では「自主点検リスト」のチェック、年に1回「より適切な関わりをするためのチェックポイント」「不適切アンケート」を実施しており、職員個々の養育・支援の内容を振り返る機会を設定している。今後は、振り返りにより明確になった課題への取り組みを具体化されるなど、PDCAサイクルを活用した仕組みの整備をすすめられたい。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

単年度計画には養育・支援の質の向上に向け、年1回の自己評価と3年に1回の第三者評価受審の取り組みが明記され実施されている。自己評価では、各クラスごとに担当を分担し、職員間での話し合いの上で評価結果を作成している。その結果を持ち寄り施設としての最終的な評価結果とし、課題を把握して改善計画を策定するために、サービス向上委員が設置されている。今後は、サービス向上委員の機能を充実させ、課題についての取り組み状況を定期的に確認・見直しされる体制を整備されたい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設長の役割と責任についての職務分掌は「管理規程」に明示されており、年度初めの職員会議にて自らの役割のほか、施設長不在時の権限移譲についても併せて説明するとともに、それらの内容が記載された書面を配布するなど明確に表明している。今後は、年度初めの広報誌などに新年度に向けた方針や意欲、施設長が果たしていく役割等について掲載されることも検討されたい。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設長は、全国乳児福祉協議会や愛知県児童福祉施設長会、関係機関等の研修会等に参加され、法令等に関する情報を入手するほか、法人として法令遵守についての基本方針が策定され、法人全体で関係する法令についての情報共有が図られている。また、利害関係者との適正な関係を保持するため税理士法人の経理監査、法人監査委員による内部経理監査が実施されており、コンプライアンスの徹底が図られている。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設長は、職員会議や各種会議に参加して養育・支援に関する課題についての把握に努めている。また、令和3年度より職員会議を二部制にし、全職員(正規職員・臨時職員)が意見を言える体制を整備し、養育・支援に対する職員の意識を高めている。さらに施設長は、日々の子どもの記録等に目を通して養育の現状の把握を行い質の向上に努めている。今年度は「社会的養護推進計画」に基づき、小規模グループケアを推進するため、課題改善に向けて指導力を発揮している。		

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設長は「社会的養護推進計画」に沿った家庭的養護体制の整備に向け、リーダーシップを発揮され本館棟の建て替えの着手にこぎつけられた。併せて、次年度にスタート予定の小規模グループケアに必要な職員の人員配置や子どもへの養育支援体制、予算などの財務等を具現化するために、関係機関と連携を図り新生乳児院に向けた指導力を発揮されている。今後は、副施設長や主任等の役職者の業務分担の再確認、連携体制の構築、業務委譲なども計画的に進められたい。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人事務局が、各事業所の意向を踏まえて必要な人材や人員体制に関する方針を定め、組織的・計画的に職員採用を行っている。非常勤職員については、施設において必要とされる有資格者を採用している。また、職員別に必要とされる育成計画が作成されており、育成計画には職員の意向を確認する仕組みも構築されている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人として「人事考課制度運用の手引き」が整備され、新規採用職員から施設長などの役職者までそれぞれ等級が定められ、各等級ごとに期待される役割が明確になっている。各等級ごとの人事考課シートが用意され、施設長は人事考課シートをもとに各職員の評価を行い、個別面談により評価を伝える仕組みが整っている。また、法人にて昇格に関する要綱も整備され、昇格等の人事基準も明確になっている。「人事考課制度運用の手引き」は必要に応じて適宜見直しが行われるなど、総合的な人事管理に取り組まれている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

施設長は職員と個別面談を行うと共に、年に一回法人事務局に提出する自己申告書により、職員一人ひとりの仕事の量、仕事の質、異動の希望、健康状態等を確認し、職員の意向把握や職場環境の改善に努めている。また、法人や施設では有給休暇の取得促進に取り組んでおり、産休・育休の取得も推進している。一方、職員からは職員配置、勤務形態に関して改善要望の意見もあり、今後は、働きやすい職場づくりとしての観点から、小規模化にそった勤務形態やシフト編成等の見直しについても検討されたい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人は「人事制度運用の手引き」の中で職務職階別に「期待する職員像」を明確にし、人事考課制度を運用して目標管理と昇格等への仕組みを構築している。施設長や副施設長など管理職については、年間目標を設定し書面で法人事務局長に提出する仕組みがあるが、一般職については施設長との個別面談により各自の目標を確認するに留まっており、書面化には至っていない。今後は、乳児院として職員一人ひとりの目標を具体的に記録として残し、進捗状況の確認、目標達成度の評価・振り返りができる仕組みづくりも検討されたい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人として「期待する職員像」が具体的に明示されており、法人全職員に対する様々な研修計画が整備され、研修の目的やテーマに応じて各職員が参加できる仕組みが整っている。また、施設としても研修に対する方針や計画が明確になっており、職員の実務経験や専門資格別に研修計画が策定されている。法人の研修については、研修終了毎に内容や成果などの見直しにも取り組まれ、参加者の意見をもとにより良い研修に向けた改善が図られている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【判断した理由・特記事項等】

法人の研修計画では、職階層ごとのキャリアパス研修やテーマ別研修、非常勤職員の研修など全ての職員が参加できる体制が整備されている。施設としては、新任、異動職員に対して、乳児院職員としての心構えや基本的知識を習得するための院内研修が実施されている。また、職員は研修受講後に研修報告書を提出し、職員会議にて報告する機会が設けられ職員間で情報の共有が図られている。今後は、養育・支援に対して職員間で差異のない援助技術に取り組むためのスーパービジョンの体制も充実されたい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設には「実習生受け入れマニュアル」が整備されており、保育士や社会福祉士資格取得の実習生を受け入れている。主任保育士が受け入れ責任者となり、事前のオリエンテーションや実習後の振り返りを行い丁寧な対応に努めている。今後は、実習指導者に対する学習機会の設定や指導内容等に関するマニュアルの整備など、実習指導者の専門性の向上を図るための取り組みに期待したい。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	第三者 評価結果 a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人及び施設の理念・基本方針は、ホームページやパンフレット等に掲載されている。法人のホームページでは事業計画、事業報告、決算報告、苦情解決等が公開されており、年4回発行されている法人の総合機関誌「ふくしの泉」が掲載され、地域社会に法人、施設の活動状況等が示されている。施設のホームページには、第三者評価の受審結果、相談窓口なども公開され、運営の透明性に努めている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

施設は、法人の「経理規程」「職務規程」に沿った運営に努めており、毎年定期的に税理士による経理監査を実施している。また、法人内で内部経理監査委員会を設置して、事務、経理についての内部監査が実施されるなどチェック体制が整備され、指摘事項については、改善報告書を提出し改善に努めている。今後は、外部の専門家による監査支援等も検討され、より透明性の高い適正な経営・運営に取り組みられることに期待したい。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○

【判断した理由・特記事項等】

地域交流については、コロナ禍のため地域行事への参加は控えているが、感染対策を十分に行いながら近隣の公園まで散歩をしたり、動物園に出掛けるなど地域での活動を行っている。散歩の時には、地域住民への挨拶などを通して交流を図っている。また、施設は地域関係機関の一覧を整備しており、子どもの状況に応じて地域の関係機関等を活用する体制が整えられている。今後は、地域との関わり方についての基本的な考え方を文書化され、地域との交流を広げるという視点で職員に周知されることが望まれる。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

施設の「ボランティア受入マニュアル」に基本姿勢が明示されており、受け入れについての体制が整備されている。ボランティアの受け入れに際しては、活動に入る前にオリエンテーションが行われ、注意すべき点などについて詳細に伝えられている。現在はコロナ禍のためボランティア受け入れは制限されており、高校生のインターシップについては感染予防の対策をした上で受け入れている。今後は、ボランティアに施設をより深く理解してもらおう取り組みとして研修等の充実も図られたい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では、子どもの個別ファイルに主治医・専門医・里親関係・児童相談所の担当職員がフェイスシートにまとめられ、職員間で情報の共有が図られている。また、家庭支援専門相談員は市の要保護児童対策協議会の会議に参加しており、見守りや保護が必要とされる子どもの情報により、緊急措置が必要とされる場合には速やかに受け入れられる体制を整えている。退所後のアフターケアについても、児童相談所と連携し対応に努めている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通じて、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では、地域からの子育て相談を電話等で対応している。相談内容は、子育ての悩みや体調不良に関する相談が多く、養育に関する情報を提供したり必要に応じて医療機関の紹介等も行っている。また、昨年度より乳幼児や家族支援を目的とした「ママフレンズひかり」を立ち上げたが、コロナ禍のため中断している状況である。今後は「ママフレンズひかり」の再開を機に、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握にも努められることに期待したい。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人の各事業所では、定期的に施設の周辺や地域の公園等の清掃活動を行ったり、カフェスペースのギャラリーを地域の方の創作活動の場として提供するなどの取り組みが行われている。コロナの感染防止により一時的に中断しているが、従前は毎年法人主催の「福祉祭り」を開催し、地域住民との交流を図っている。乳児院では、有事の際に地域に提供できるようにミルクや紙オムツ等が確保されている。今後も、乳児院として有している養育等に関するノウハウや専門的な情報などを、地域に還元するための取り組み等について職員間で検討されたい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設の「養育運営のしおり」に基本理念・基本方針、職員勤務心得、乳児院倫理綱領などを掲載し、人権尊重や子どもの権利擁護について周知徹底が図られている。院内の研修では乳児院倫理綱領を用いて、人権擁護などについて職員間で共通の理解を持つための取り組みが行われている。また、全職員を対象に毎年人権擁護のアンケートを行い、子どもの権利侵害防止に努めるなど組織としての方針が定まっている。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設には「子どものプライバシー保護に関するマニュアル」が整備され、職員には院内研修と会議等で理解の浸透が図られている。また、保護者や実習生・ボランティアには施設内での写真撮影やHPの掲載等の制限や規程について説明され、同意書も取っている。今年度は本館の改修工事のため、オムツ交換や入浴等の場面ではスペース上十分な配慮ができていない点もあるが、次年度からスタート予定のユニット化に配慮したマニュアルの見直しも検討されたい。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設のパフレットには、理念・基本方針、養育・支援の内容や特徴等を、写真・図・イラストを使ってわかりやすく紹介されている。入所予定の子どもの保護者や見学者には、家庭支援専門相談員が入所のしおりやパフレットを用いて保育内容を丁寧に説明し、安心できるような配慮がされている。また、ホームページには理念、概要、子どもたちの生活の様子、行事予定、苦情解決、個人情報について施設の特性に配慮した構成で掲載されるなど、情報の提供がされている。		

②	31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【判断した理由・特記事項等】

養育の開始にあたり、職員は保護者に対してパンフレットや入所のしおりを用いて、生活や養育のことを分かりやすく説明をしている。子どもがどのように成長して欲しいか、どんな養育を希望するか等、保護者の思いや意向を時間をかけて聞き取り、支援計画書に記載をしている。また、髪形、予防接種、写真の掲載方法の有無など、同意を書面で取りそれに沿った支援を行っている。入所の状況により保護者への説明が難しいケースは、児童相談所の担当者が意向を聞き取る等、保護者の思いを尊重する体制が図られている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では「措置変更の際の引き継ぎ・申し送り事項」を定めており、マニュアルにも反映させている。措置変更時には、書類や引き渡しのルールが確立されており、養育・支援の継続性が図られている。家庭復帰の場合は、保護者・児童相談所・乳児院の三者で話し合うと共に、退所前に関係機関との調整を行っている。保護者には、退所後も引き続き乳児院に相談できることを書面にて伝えている。里親委託の場合は、里親支援専門相談員が中心となり、里親候補と子どものマッチングから里親委託、関係機関との調整・アフターケアも含めた対応が行われている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	(乳児院) <input type="checkbox"/> 子どもとの日々の関わりの中かで、子どもの満足を把握するように努めている。	○
	(乳児院) <input type="checkbox"/> 職員等が、保護者等とのコミュニケーションを可能な範囲で図り、定期的に保護者等の満足を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した子どもの満足を集約する担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設で作成されている月別の保育目標において「個々の子どもの生活リズムを把握し、ゆったりとした温かい雰囲気の中で安心して過ごせるように援助する」等、言葉で意思表示できない乳幼児の気持ちを汲み取り、日々の養育を行っている。また、子どもたち一人ひとりに担当職員を配置する「担当養育制」が原則的であり、愛着関係形成に配慮されている。面会等の交流が可能な保護者については、意見や要望を聞き取りクラス会議で周知するなど保護者の満足度の把握にも努めている。

(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

苦情受付担当者が配置され、外部に3名の第三者委員を定める。苦情解決の仕組みについては、入所時に書面を保護者等に配布し、玄関にも掲示されている。また、各担当職員は保護者の面会時に養育や支援についての意向を聞くようにしており、意見があった際は記録として残しクラス会議にて検討を行っている。その改善策については必ず保護者に返答され、養育・支援にも反映されている。今後は、可能な範囲で保護者向けのアンケート調査を実施するなど、幅広く意見が聞ける工夫も検討されたい。

②	35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設の玄関には、相談方法や相談相手がいることが明示され意見箱も設置されている。また、保護者との面会時にはプライバシーに配慮した相談室が確保されており、家庭支援専門相談員や担当職員などが、相談内容に応じて柔軟に対応する体制が整えられている。また、苦情等については窓口が掲示されており、ホームページにて苦情内容や対応なども公表している。

③	36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

保護者から相談を受けた際の対応や記録についてのマニュアルが整備されている。相談については家庭支援専門相談員や担当職員が意見等を傾聴し、速やかな対応に努めている。また、保護者からの意見や相談がない場合でも、子どもの養育・支援内容を説明して要望等の確認を行っている。今後は、口頭では伝えにくい意見や要望の把握のためにも、意見箱等の活用方法やアンケートの実施等も検討されたい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では毎月1回リスクマネジメント委員会を開催して、ヒヤリハットや事故報告書の内容を集計・分析・検証を行い改善策が検討されている。委員会で話し合われた改善課題については、職員会議で周知され再発防止に努めている。また、「事故防止マニュアル」及び「事故発生時対応マニュアル」なども整備されており、安全確保や事故防止に関する研修を行うなどリスクマネジメント体制が整っている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では「感染症マニュアル」が策定され、各クラスに掲示されており、定期的な見直しも図られている。感染症発生時は、マニュアルに従い嘱託医の指示や助言をおおぎ感染拡大防止に努めている。また「感染症発生時における業務継続計画(BCP)」についても災害時のBCPとは別に法人で整備されており、感染症発生後の具体的な対応や連携体制など各施設の状況に即した計画が整備されている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【判断した理由・特記事項等】

災害発生時の緊急連絡簿、災害対策マニュアル、事業継続計画(BCP)が作成され、地震・防災組織表が整備されている。また、様々な災害を想定した避難訓練が設定され、年間計画にそって実施されている。年1回行われている法人全体での総合防災訓練では、法人施設間での連携が図られるなど応援体制が確立されている。施設の備蓄品については、定期的にリストを用いて在庫管理を行うなど、災害時に向けた体制が整備されている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	
【判断した理由・特記事項等】		
施設の標準的な実施方法として「養育運営のしおり」「養育マニュアル」「自主点検」などが整備され、様々な場面で活用されている。施設全体では単年度の支援計画、クラス別保育看護計画、運営管理が策定され、マニュアルには養育・支援に関する具体的な内容が明文化されている。新任職員や異動してきた職員に対しては院内研修の一環として、マニュアル理解度のテストが実施されている。今後は、全職員がマニュアルにもとづいて養育・支援に取り組んでいるか確認する仕組みも検討されたい。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	
【判断した理由・特記事項等】		
施設の「養育運営のしおり」やマニュアルについては、年度末のクラス会議で内容について検証、見直しが行われ職員会議にて検討されてから、翌年の養育・支援に反映されている。検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容も反映されるように検討されている。また、児童相談所を通して保護者の意見等も確認している。今後は、確認された保護者からの意見の内容を精査し、標準的な実施方法に反映させる仕組みを検討されたい。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	
【判断した理由・特記事項等】		
アセスメントシートの作成は、家庭支援専門相談員、児童相談所担当者、心理員による協議のもとで行われている。自立支援計画の策定は主任が責任者となり、担当職員がアセスメントシートをもとに、子どもの家庭環境や抱えている問題、成長過程で必要とされる支援を明確にして作成されている。最終的には、主任者会議での合議により最終確認がされている。今後は、支援困難ケースの対応についても積極的に取り組める体制づくりに期待したい。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画書や支援の状況報告書についての振り返り・評価は年に1回、各部屋会議とケース会議で行い、その結果を児童相談所へ提出をしている。一人ひとりの成長過程に合わせた目標や課題を立て、疾病や情緒面の不安を抱えている子どもに対しては、専門医や心理員から助言等を計画書に反映をさせている。また、計画書の目標や意向については、可能な範囲で保護者からの要望や意見、ビジョン等を聞くように努めている。今後は、緊急的に自立支援計画を変更するケース等も想定され、随時の見直しができる仕組みも整備されたい。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では記録の書き方や保管方法を定めたマニュアルが整備され、記録に関する研修会の実施や若手職員への指導体制が確立されており、職員間での差異が生じないように取り組んでいる。各部屋の担当者が日々の支援状況を児童観察記録に記載し、一人ひとりの成長の過程が分かりやすくまとめられ、その記録をパソコンで共有できるネットワーク化の整備がされている。ただ、自立支援計画から立てた目標が、実施されている個別支援の月間目標と連動していないケースもあり、今後は双方の計画目標が連動される仕組みに期待したい。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人では「個人情報管理規程」が策定されており、施設としても子どもに関する記録や書類の管理方法が定められている。職員には、個人ファイルの取り扱い、情報管理、関係書類の持ち出し禁止などについての研修が行われている。また、保護者には入所時に個人情報について説明し、同意を得ている。定期的に受け入れている実習生、ボランティアに対しても守秘義務に関する誓約を書面で交わし、子どもたちの個人情報の漏えい防止対策に努めている。

内容評価基準（22項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【判断した理由・特記事項等】

子どもの権利擁護については乳児院倫理綱領をはじめ、養育の基本理念と共に育運営のしおりに明示されている。施設としての具体的な取り組みとしては、権利擁護に関するアンケート調査を実施し、集計された内容は各職員にフィードバックされている。また、新任職員や異動してきた職員に対しては、院内研修を定期的に行い理解の浸透に努めている。今後は、職員全体で子どもの権利擁護について検討する機会も設け、子どもの最善の利益をめざした養育について理解を深められたい。

(2) 被措置児童等虐待の防止等	第三者 評価結果
<p>① A2 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりについて、具体的な例を示し職員に徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>会議等で取り上げる等により、不適切なかかわりが行われていないことを確認している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【判断した理由・特記事項等】

自己振り返りチェックシートや人権擁護アンケートにより、不適切なかかわり防止と早期発見に向け組織的に取り組んでいる。ただ、全職員に十分な理解、浸透されているとは言えない点もあるため、今後も自己振り返りチェックシートを有効活用し、課題を検討して改善までつなげることに期待したい。また、施設の不適切対応マニュアルに、不適切な関わりがあった場合について、より明瞭な対応方法等の明文化や対応ルールについても明示され職員周知に努められたい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A3 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育てている。</p> <p><input type="checkbox"/>乳幼児に対する受容的・応答性の高いかかわりを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。</p> <p><input type="checkbox"/>どの乳幼児も保護者等、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかかわりを持つことができる体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した「担当養育制」をとっている。</p> <p><input type="checkbox"/>担当養育者と個別のかかわりを持つことができる時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体のふれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【判断した理由・特記事項等】

次年度から開始される小規模グループケアにより、養育単位をより小さくされ家庭的な養育環境の下で安心して生活できる体制が予定されている。その準備段階として、今年度も幼児は日中4名の7グループ体制で養育が行われている。施設では基本的に担当養育制となっているが、現在は乳児グループから幼児のユニットへ移室する際には担当職員が代わるため、移室連絡票を作成し子どもたちが不安にならないような対応がとられている。小規模グループケア後は、職員の人員配置を検討され一貫した担当養育性が行われることに期待したい。

②	A4 子どもの生活体験に配慮し、子どもの発達を支援する環境を整えている。	b
	<input type="checkbox"/> 日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人ひとりにあった形で進められている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの欲求や要求に対し、抱いたり声をかけるなど、タイミング良く気持ちを受け止め対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個々の発達や状態に応じた適切な言葉を用い、穏やかに言葉かけをしている。	○
	<input type="checkbox"/> 安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などの個別化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 自然と触れ合える外遊びが養育者との十分なやりとりを交え提供されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設の本館の改修工事というハード面の制約があるものの、子どもたちの発達に合わせた穏やかな言葉かけの中で保育が行われている。個別の収納棚が用意され、コップや水筒などは個別化が図られている。また、近くには公園もあり、自然と触れ合いながら遊ぶ活動も多く取り入れられている。現在は改修工事のため、玩具を自由に出して遊べないクラスもあり、時間帯によっては子どもの気持ちに寄り添えない場面も生じている。小規模グループケア後は、子どもたちにとってより家庭的な環境のもとで、子どもの主体性を育むような取り組みに期待したい。

(2) 食生活

①	A5 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 授乳は、自律授乳を基本としつつ、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 授乳時は、乳幼児を抱いて、目を合わせ、やさしく言葉をかけ、ゆったりとした気持ちで飲めるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人飲みをさせていない。	
	<input type="checkbox"/> 生体リズムの乱れなどで自律授乳や自発的意思の授乳が難しい乳幼児には、その子の状態に応じた授乳を工夫している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもたち個々の生活リズムや体調に合わせて、適切な量や時間間隔による授乳が行われている。授乳表には便の状態や体温も記入されており、職員が情報交換しながら無理のない授乳に努めている。一人飲みをさせないことを基本としているが、食事時間帯であったり、夜間で授乳が重なり職員の応援体制が取れない場合は、やむを得ず一人飲みが行われることもある。今後は、次年度よりスタートする小規模グループケアも意識された職員配置を検討され、一人飲みがないよう改善策を検討されたい。

②	A6 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人ひとりに合わせた食の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物や味に慣れさせている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事をいやがったり遊びだしてしまう場合にも、時間をかけてゆったりとした気持ちで与えている。	○
	<input type="checkbox"/> 噛む力を養うために、食品の種類や調理方法を工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 栄養士や調理員等は養育者とともに、咀嚼や嚥下の状況を確認し発育状況や体調を考慮しながら離乳食を進めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもたち一人ひとりの成長発達に応じて、離乳食が開始されている。離乳食の介助は対面で「おいしいね」等、言葉かけをしながら子どものペースに合わせて行われている。嚥下・咀嚼の状況を担当養育者や栄養士が把握し、具材の大きさや硬さを含め、食品の種類や調理方法を工夫しながら適切に進められている。また、離乳中期より卵チェックを行いながら卵も取り入れたり、歯科医からの口腔状態や摂食アドバイスを養育に反映させるなど丁寧な取り組みが実践されている。

③	<p>A7 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事場所は清潔に保たれ、明るく楽しい雰囲気でき食事ができるよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが食べやすいように、身体に合わせてテーブルと椅子の高さを適切に調整している。</p> <p><input type="checkbox"/> 乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 食前の手洗い、食前食後のあいさつ、食後の歯磨きなどが定着するよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事の食べ方や量にばらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと視線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 日々の食生活を通じて食べたいものや好きなものが増える工夫がされている。</p> <p><input type="checkbox"/> お腹がすくりズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人ひとりの発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。</p>	b
---	--	---

【判断した理由・特記事項等】

子どもたちが食事を楽しく、おいしく食べられるように個々に盛り付け量を調節し「食べた」という達成感が得られるように努めている。行事食では、見た目にも楽しい盛り付けにされたり、バイキング形式を取り入れるなど食べる楽しみや喜びを感じてもらえるような丁寧な取り組みがなされている。食事用の椅子は子どもの体格に適したものとは言えないものもあるが、床に足がつくように足のせ台を作成し、座位保持ができるように調整する工夫もされている。今後は、子どもの成長に合わせて食べやすい高さのものを検討されたい。

④	<p>A8 栄養管理に十分な注意を払っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 栄養だけではなく季節感を取り入れた食事が提供されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に個別に対応した食事を提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 乳幼児の嗜好や栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。</p> <p><input type="checkbox"/> さまざまな「食育」への取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 発達に応じて、食事の準備や食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに興味関心を持つことができるよう工夫している。</p>	a
---	---	---

【判断した理由・特記事項等】

施設の本館に隣接している交流棟で実施されている小規模グループケアでは、調理過程の一部を子どもの目の前で見せながら、子どもと一緒に作り上げている。本館の子どもたちも目の前で果物の皮むきや切り分け等を行い、食事に興味を持てるような機会を設けている。保育者と一緒に作るカレーライスやお好み焼き・おやつなどのクッキング体験も行っている。体調不良時は軟飯にしたり、ヨーグルトなど口当たりの良いものに変更して提供されるなどの配慮もされている。

(3) 日常生活等の支援

①	<p>A9 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。</p> <p><input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。</p> <p><input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 寝ている生活が主なときは前開きのものを、動きが活発になったら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。</p>	a
---	---	---

【判断した理由・特記事項等】

子どもたちの衣類については個別に用意、収納されている。衣服購入の際は、担当職員が季節や素材、月齢などを考慮し、皮膚の弱い子には、なるべく刺激の少ないものを選ぶ等の細かな配慮のもとで購入されている。コロナ感染症流行前は、子どもと一緒に買い物に行き、一緒に選ぶなどの取り組みも行われていた。現在は実施が難しい現状ではあるが、状況に応じて再開を検討されている。パジャマ等はボタンの留めはずしができるものを選んだり、自分で着脱しやすいズボン等を準備するなど、着脱に興味を持ち始めた子どもへの配慮もされている。

②	A10 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 室内の環境として、温・湿度、換気、明るさ、静かさ、音楽などを快適に保っている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の環境として、肌に触れる素材は綿素材を用い、広さ、形状、硬さなどを快適に保っている。	○
	<input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。	○
	<input type="checkbox"/> 快適に十分な睡眠をとれるよう、個々の乳幼児の発達・心理に配慮した職員の対応など具体的な独自の取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設の「養育のしおり」の中には、睡眠介助として乳児の睡眠・睡眠誘導・寝汗の調整等がマニュアル化され、適切に示されている。途中覚醒時の対応や朝、目覚めた時には子どものそばに行き「おはよう」の挨拶をする等もマニュアルに記載され実践されている。室内の環境としては、温度・湿度計を設置し、エアコンや寝具などで調整しながら快適な睡眠への配慮がされている。また、安眠できない子どもには添い寝をしたり、心身ともに安眠できる環境づくりに努めている。

③	A11 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。	○
	<input type="checkbox"/> 浴室・沐浴槽などの設備やタオル・バスタオルなどの備品は常に清潔が保たれている。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の年齢、発達、発育等、個々の状況に応じた入浴方法がとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴に際し、おもちゃ等を用意し、心地よい体験になるよう工夫している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設の小規模棟を含めた3か所で、毎日14時から16時の時間帯で入浴を行っている。安心して楽しい入浴が行えるように、職員も一緒に入浴する機会を持ち、肌と肌との触れ合いやスキンシップを大切にしながら、子どもたちが自分で身体を洗う練習を援助したり、会話を楽しみながら子どもの心身の安定にも努めている。汗をかいたり汚れてしまった時などは随時度シャワー浴も行い、清潔さを保つ取り組みも十分である。

④	A12 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をマッサージなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、排泄への興味を持てるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

おむつ交換等の排泄援助では、子どもの顔を見ながら声をかけ、おむつ交換が心地よいものであること意識できるように努めている。便や尿の状態、回数などを部屋のボードや記録表に情報を記入し、健康状態の把握を行っている。トイレトレーニングについては、段階にそった援助となるようマニュアルに明記されており、子どもたちの発達に合わせた支援に努めている。

⑤	A13 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかわりができるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 月齢により、収納場所を設け、玩具の個別化をし、自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。	

【判断した理由・特記事項等】

子どもたちはバスに乗って出かけたり担当職員との買い物等、コロナ禍でできなくなっている取り組みも多いが、代替えとなる取り組みを検討し、実施されている。近隣にある法人施設経営のパン屋さんで好きなパンを選んで、職員と一緒に公園で食べるピクニックごっこ等は、子どもたちの大きな楽しみとなっている。2歳前後の子どもたちを中心に、リトミックも継続的に行われている。本館の改修後においては、収納場所を工夫し玩具が自由に出し入れできるよう検討されることに期待したい。

(4) 健康

①	A14 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常的に医療機関等と適切に連携するよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 異常がある場合には、医療機関を受診するなど適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> ミルクや離乳食を開始した当初は、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの健康状態は、体温表や様子などを養育支援システム(FTケア)に記録され、日々の健康状態を把握している。日常の保健管理として、乳幼児の生理的特徴や検温の仕方などを含めマニュアルに分かりやすく明示されている。また、嘱託医との連携も取れておりインフルエンザの予防接種も施設内で行われている。乳幼児突然死症候群(SIDS)対策として、夜間も含め15分毎に呼吸チェックを行い記録され、乳児については呼吸センサーが使用されている。

②	A15 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	b
	<input type="checkbox"/> 病・虚弱児等個々の健康状態の変化が、常に把握できるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた療育計画や発達支援計画などを含む支援のプログラム等を作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。	
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医による定例的な診断を受けている。	○
	<input type="checkbox"/> 異常所見がみられた場合には、速やかに専門医や主治医に相談できる連絡体制をとっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

看護師を中心に毎日病・虚弱児の個々の健康状態を把握し、状態変化時も迅速に対応できるように嘱託医との連携体制が整っている。総合病院への受診も行われ、受診記録も職員間で共有できる仕組みとなっており、適切な支援が行われている。服薬管理についてもマニュアルが整備され、ダブルチェック体制がとられている。リハビリテーションが必要な子どもには、法人内の理学療法士(PT)や作業療法士(OT)による支援が行われている。今後は、発達支援プログラム等の作成も検討されたい。

(5) 心理的ケア

①	A16 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を必要とする乳幼児について、保護者等への支援も視野に入れた自立支援計画や養育計画に基づき、心理支援内容が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理支援内容には、個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理職をおき、乳幼児にも保護者等にも心理的援助を行える体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関する職員研修やコンサルテーションが行われている。	

【判断した理由・特記事項等】

施設の心理員は、子どもの入所後すぐに発達検査を行い、それをもとに担当職員が個別に自立支援計画を策定している。その後も半年に一度検査を行いながら心理的支援を行っている。保護者の心理的ケアについては家庭支援専門相談員が中心となり行われており、対応が困難なケースには外部の専門家からアドバイスを受けながら心理的ケアに取り組んでいる。今後は、心理員を活用し家族へのアプローチや職員研修なども検討されたい。

(6) 親子関係の再構築支援等

①	A17 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員が中心となって施設と家族との信頼関係を構築するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設が家族と共に子どもの成長を喜び合う雰囲気を大切にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会時に必要に応じて保護者等の養育スキルの向上を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等の相談に積極的に応じるための保護者等面接の設定等、専門的なカウンセリング機能の充実に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員は、家族に寄り添い、保護者等の言葉を傾聴する役割を担っている。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子を写真やお手紙に書いて家族に伝えている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設には家庭支援専門相談員1名が配置され、子どもの担当職員と連携して保護者が気軽に相談できる雰囲気づくりを心がけながら、保護者に寄り添った支援に努めている。保護者との面会時には、養育能力に応じてオムツ替えやミルクの作り方などの養育スキル向上のためのアドバイスを行っている。現在は、コロナ禍のため面会等の制限もあり、また子どもとの関係が疎遠になっている保護者等には、施設が発行している「よちよち通信」とともに、手紙や写真で子どもの様子を伝えるなど親子の関係づくりに努めている。

②	A18 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援に関する具体的なプログラムや配慮事項が明記されている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所理由の理解とケアの方向性についてアセスメントしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、施設宿泊、一時帰宅などを計画的に設定し、乳幼児と保護者等との関係性が好転し、保護者等の養育意欲が向上するよう支えている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりがあった場合には、その発見ができるように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題の内容によっては適切な機関につなげられるよう、地域の精神、心理相談のできる機関を十分に把握し、連携をとっている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生、親子関係の再構築に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

親子関係の再構築へ向けて、家庭支援専門相談員が児童相談所職員と調整して家庭取りのプログラムを策定している。保護者と子どもの安全を確保し、保護者の養育力を見極めながら面会、外出、外泊等の段階を踏んで関係性を確認し、親子関係の再構築を支援している。また、里親への措置変更を行う場合も、基本的には同様の支援を行っている。

(7) 養育・支援の継続性とアフターケア

①	A19 退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの退所先に応じて、退所後の生活に向けて必要な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後、施設に相談できる窓口(担当者)がある等、必要に応じた支援をするための体制を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所や関係機関、民間団体等と連携を図りながら退所後の支援を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

家庭支援専門相談員が中心となり、退所後も子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。退所後、施設に相談できる窓口があることを伝え、必要に応じて家庭訪問などを含めた支援体制が整っている。さらに、児童相談所や関係機関(要保護児童対策協議会等)と連携を図り、退所後の多角的な支援体制が可能となっている。

(8) 継続的な里親支援の体制整備

①	A20 継続的な里親支援の体制を整備している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育単位の小規模化による家庭的養護の推進や、早期に家庭復帰が見込めない乳幼児には個々の状況に応じて里親委託を推進している。	○
	<input type="checkbox"/> 里親委託の推進に当たり、里親支援機能の充実などの中・長期計画を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 里親支援専門相談員を配置するなど、里親委託の推進、地域の里親及びファミリーホームに対する継続的な支援の体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 里親委託に当たり、委託に至るまでに里親・児童相談所等と丁寧な連携を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 里親を希望する地域の人を対象に相談を行うなど、支援の取り組みを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談支援のほか研修、レスパイトを行うなど、里親の状況に応じた取り組みを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

里親支援専門相談員が配置され、継続的な里親支援の体制が整備されている。施設の「養育運営のしおり」には、支援計画の重点項目として「里親支援の推進及び里親委託推進の強化」を掲げ、乳児院として里親支援業務を充実させていく方針が明示されている。施設では里親を対象とした研修や里親養育技術支援とレスパイト(小休憩)援助等の支援活動に取り組まれている。また、近隣地区の里親支援活動にも積極的に参加されたり、里親制度についての啓発・広報活動、出張講座などにも取り組まれるなど里親に対する支援体制が整備されている。

(9) 一時保護委託への対応

①	A21 一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携して、初期の情報共有とアセスメントに努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 一時保護を受ける際のマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所時の健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症やアレルギー等の観察と配慮に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な職種が連携・協同し、一時保護後の養育環境(家庭復帰・里親、児童福祉施設等)の確保に向けてアセスメントに基づく支援を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では24時間体制で積極的一時保護を受ける体制が整っており、受け入れのマニュアルも整備されている。一時保護から措置入所となる可能性のある子どもについては、職員が児童相談所と連携し、一時保護の期間中に子どもの支援ニーズの把握に努め、子どもの最善の利益につながるような支援に努めている。今後は、感染症流行時の受け入れについてもマニュアルに加えられると共に、受け入れ後は関係機関を含めた多様な職種による連携を行いながら情報共有し、アセスメントが行える体制の整備に期待したい。

②	A22 緊急一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。	b
	□児童相談所から緊急一時保護を受け入れている。	○
	□緊急一時保護を受ける際のマニュアルが整備されている。	○
	□観察室での「観察期間」の実施を順守して対応を行っている。	○
	□入所時に、必要に応じて医療機関との連携をはかる等の対応を行っている。	○
	□感染症や潜伏期間等への対応が十分にできている。	
	□受け入れ後の多職種による連携したアセスメントが実施されている。	

【判断した理由・特記事項等】

緊急一時保護に対しては、24時間受け入れ対応が可能となっており、夜間帯には夜勤のリーダー職員が対応できるようにマニュアルが整備されている。ただ、子どもが感染症に罹患している場合などは、一時保護のための部屋がなく、受け入れを断ることもある。施設は現在改修工事中のため観察室を設けることができない状況となっているが、本館改修工事後には、ショートステイや緊急一時保護児童に対応できる観察室が設置予定であるため、今後の受け入れ体制の整備等に期待したい。